



福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会 ニュースレター

1. 福島県の状況について

東日本大震災より3年が経過しました。福島県では本年3月7日に第18回福島県原子力発電所の廃炉に関する安全監視協議会（略称：廃炉安全監視協議会）を開催しています。東京電力福島第一原子力発電所では、未だに「汚染水貯蔵タンク上部天板部からの高濃度汚染水の漏えい」、「4号機使用済燃料プール冷却の一時停止」等のトラブルが相次いで発生しています。この会議では、これらの原因に関する調査結果、再発防止対策とその実施状況の確認、さらには、水処理二次廃棄物の管理状況の早急な確認が必要と結論しています。廃炉への道のりの長さを改めて心配せずにはられません。

福島県はこのような状況の中で、県民の健康状況を把握するための「県民健康調査（県民健康管理調査から名称を変更）」と、市町村や民間の医療機関で「ホールボディカウンター」で検査した内部被曝の結果と、外部被曝量を計測した個人線量計データ（市町村で実施）の一元化を目指しています。これらの結果を統合した「データ管理システム」を構築して長期にわたり県民の健康管理に備えるとしていますが、住民情報との照合などには困難があるようで、実現に至るまでは時間がかかると予想されています。

現在、福島県では、「県民健康管理ファイル」という2つのとじ穴が開けられた厚さ1cm、24ページの「リングファイル」が配布されています。検査記入用の8ページは平成33年までがん検診結果を記入できるものですが、記入内容は成人が対象となっています。後半14ページは放射線に関するテキストとなっています。また、10個程度のクリアポケットがついており、ここに検査結果などをファイリングできるようになっています。これ以外にも、県内の各自治体や民間団体で同様の手帳を作っています。将来的に健康上の問題が発生した時に、医療保障を受給するための根拠となる資料となるでしょう。

低線量被曝の健康被害は、現代の科学の範囲の中で正確に予測する事は不可能です。予防としては移住など、線量の低い地域に移動することが望ましいと考えられていますが、児童養護施設の子どもたちは県からの措置で入所しているため、自らの意思で移動する事はできず、また様々な要因から施設を離れる事が難しい状況です。低線量被曝の長期的な影響については、最大限の予防を図る一方で、検査結果等を生涯にわたり記録・管理する必要も生じています。

2. 卒園する子どもに健康手帳を贈呈しています

本会は、卒園する子どもを対象として健康手帳を配布しています。健康手帳とは、施設に入所している子どもたちの健康記録を一つにまとめたもので、母子手帳をイメージしていただければと思います。2013年3月には6名の卒園生に、ご本人たちの記録を施設の看護師が記入した上で贈呈しています。本年度はご協

力いただいた2名の看護師から、使用上の問題点等をヒアリングし、それを基に検討した改訂版健康手帳を作成しました。昨年度に引き続きフクシマススムプロジェクトの助成金で印刷をしました。

2014年度の改訂版は、男女同一冊子から男女別2種類の冊子へ変更したことと、A4版の検査結果が、そのまま



.....

目次：

- 1. 福島県の状況について
- 2. 卒園する子どもに健康手帳を贈呈しています
- 3. 食物による内部被曝予防の重要性
- 4. 甲状腺エコー検査を卒園生にも行いました
- 5. チャリティコンサートを開催していただきました
- 6. 理事会・定時総会を開催しました
- 7. 会費納入・寄付・未使用切手寄付感謝
- 8. 助成





県民健康管理ファイルに改訂版健康手帳を綴じて卒園生がまとめて保管できるようにした施設もありました



食品放射能測定室は公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会などの寄贈を受けて設置することができました



青葉学園の食品放射能測定器：ATOMTEX 食品放射能（セシウム）スクリーニングシステム

貼り付けられるようにA4大判にしたことです。県民健康調査で行っている甲状腺エコー検査や血液検査のほかに、本会が実施している尿中セシウム検査、クイクセルパッチによる個人線量測定の結果用紙を貼れるようにしています。また甲状腺エコー検査が受けられない子どもを対象に、本会が実施しているエコー検査の結果や画像データの記録もできるようにしました。

本会の健康手帳の特徴として、これらの検査結果だけでなく、身長体重を含めた成長や、予防接種の記録なども載せています。母子手帳を持っていない子どもでも幼少期からの自分の成長がこの1冊で把握できるようにし、ルビもふりました。本会の健康手帳は、放射性物質の

3. 食物による内部被曝予防の重要性

放射性物質を測定する際は、検出下限（検出できる最低値）や誤差範囲（測定時に生じる過ちが許容できる範囲）が重要です。食品に含まれる放射性物質の量を正確に測定する事は難しいため、これらの数値と共に測定値を読むことが必要です。福島県内では市町村事業として食品に含まれる放射性物質を測定していますが、市民に返される結果ではこのような数値は省略され、また実測値も「国の基準以上ではない」という一言にまとめられて具体的な数値を知ることはできません。通常、測定には30分程度の時間を要するのみですが、ここでは翌日に文書で結果を通知するシステムとなっており、測定する食材もその場で廃棄してしまうため、徐々に利用者が少なくなってきました。すると利用者が少ないという理由で、各市町村の検査場を閉鎖する動

体への影響のみでなく、施設で成長していく子どもの健康状態をすべて網羅できるよう、そして県が管理するのではなく自分自身で管理して、卒園後、検査の記録を自分で保管できることを願って作成しました。

冊子にした紙版では子どもが紛失してしまった後は、再発行ができず、施設にもデータが残らないので、健康手帳ソフトウェアの開発に乗り出しています。ソフトウェア開発の他、各施設へのパソコンなどの設備、また導入に当たってデータを変換・入力する作業、保守点検などに多くの費用がかかりますが、皆様のご協力で順調に計画が進んでいます。お志に改めて感謝申し上げます。

きも出てきました。時間と共に食品による内部被曝への関心が薄れることで、内部被曝のリスクを高めているように思えてなりません。便利・手軽・正確な検査体制こそ、震災後3年目を迎えた福島の人々の内部被曝予防に必要と思われます。

幸い福島県の児童福祉施設などの給食については、県の検査体制整備事業による食品放射能測定が2012年度末から始まっています。本年度も、計測をして廃棄する食品の費用、測定をする人件費が県から支給されるようです。本会が仲介をして、いち早く福島県内の4つの児童養護施設に測定室を確保したことが一助となっています。昨年度は各施設で試行錯誤していた測定方法などを共有・検討する栄養勉強会を開催しました。今後は測定方法をさらに深められるような勉強会を開催したいと計画しています。

4. 甲状腺エコー検査を卒園生にも行いました

本年3月2日に、県民健康調査の結果について検討するための「甲状腺検査評価部会」が開かれました。会議では、甲状腺がんと原発事故との関連の解明について科学的な検証は難しいとする意見

が出て（3月3日福島民友新聞）、全国的な調査や福島県と他県との比較は不安を煽ることから行わないなどの意見が出ています。過去の世界の様々な研究により、統計による科学的立証が確実となる

.....
 までには、膨大な検査数と年月が必要であることが分かっています。本会はこのような専門家の意見に賛成・反対と唱える事よりも、未曾有の事故と呼ばれる福島の子どもたちには、様々なリスクを考慮した対応が必要と考えて活動する事としてきました。

事故当時18歳以下の子どもであった37万人が検査を受けることになっていますが、既に県外を居住地とする子どももいるなかで継続的に検査を実施する対策が今後必要になってきます。本会では、2011年3月に児童養護施設に入所していた子どもで、卒園して県外へ出た子どもを対象として、施設内で甲状腺エコー検査を実施する際に、入所している子ども達と共に検査を受けられるよ

5. チャリティコンサートを開催していただきました

2013年12月4日 杉並公会堂小ホールにて、声楽家田中ふみさんの呼びかけ「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会を支援するチャリティ・道草コンサート」と題した催しが開かれました。「道草コンサート」という気軽に立ち寄れるタイトルですが、二重唱（うた田中ふみ 岩永八重子、ピアノ 井澤真理）、ピアノソロ（原田雪子）、混声合唱（指揮 伊津野修、ピアノ 根本英子、合唱 混声合唱団ムジカ・ビーバ）の3部構成で多彩でした。懐かしい童謡から沖縄の歌まで澄み切った歌声が心に響き、またバッハやグリーグ、シューマンのピアノ演奏の美しさに魂が浄化されました。合

6. 理事会、定時総会を開催しました。

2月8日、東日本の大雪の日に2014年度第1回理事会と定期総会を開催しました。総会では、定款の変更が承認されました。

本会はNPO法人として1年半経過して、助成金を得て新しい事業を展開することが多くなりました。そのため、素

う、交通費の支給を行う事業を開始しました。この事業には「タケダいのちと暮らしの再生プロジェクト」の助成金を受けることができました。卒園生には施設職員の方に連絡をしていただき、卒園生2名が検査を受けることができました。18歳での卒園以来、初めて訪問した貴重な機会だったので、施設に1泊して多くの職員の方々と時間を共有ことができました。検査を受けることも重要ですが、このような暖かい交流につながる事が、卒園生にはとても必要なことと思います。今後は、卒園生が継続して検査を受けられるようなシステム作りを積極的に行っていく必要があると考えています。



ポータブル超音波診断装置を、施設に持っていき、子ども住み慣れた場所で検査をしています

唱団のムジカ・ビーバは沖縄を活動拠点としているグループで、20名の団員が2泊3日で東京に来てくださったの公演でした。

約200席の小ホールはほぼ満席で、最後に作曲家川口耕平氏のピアノ伴奏で「ふるさと」を全員で合唱しました。演奏終了後は本会の澤田と丸がお礼を申し上げるとともに、会の活動内容についてもお話をする機会を頂きました。出演者の皆様、受付などをして頂いたスタッフの皆様、そして会場にお越しくくださった皆様に心より感謝申し上げます。チャリティコンサートの収益金やカンパを寄付していただき、重ねてお礼申し上げます。

福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会を支援する

チャリティ・道草コンサート

2013・12・4(水)
 18:30開場19:00開演
 杉並公会堂小ホール
 JR中央線・地下鉄丸の内線 荻窪駅北口徒歩7分
 チケット ¥2500(当日券¥3000)
 制作 Tel/fax 03-3361-6297

プログラム

1部 二重唱 田中ふみ・岩永八重子 ピアノ 井澤真理
 日本抒情歌より 早稲穂 ゴンドラの唄 恥られて
 鳥こもつた 林光輝曲 三村めづ小運 花ぬ風車 雨どーい 宮古の子守唄

2部 ピアノソロ 原田雪子
 シューマン作曲「幻想小曲集」より クペレ 飛翔
 グリーグ 作曲「抒情小曲集」より ちよちよ トロルドハウゲンの婚礼の日
 バッハ 作曲 ピアノ協奏曲NO5 2楽章 ラルゴより

3部 混声合唱 指揮 伊津野修 ピアノ 根本英子
 混声合唱団 ムジカ・ビーバ
 沖縄の歌による混声合唱曲 電燈堂典子編曲
 「うさぎわつたい」より
 川口耕平作曲 人生の裏まで ふるさとの歌 よかつた

福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会



共同代表 澤田和美 (元武蔵野大学看護学部 教授)
丸 光恵 (東京医科歯科大学 国際看護開発学 教授)
副代表 塩飽 仁 (東北大学大学院 小児看護学 教授)

ホームページもご覧ください <http://www.fukujidou.org>

事務所住所・連絡先

〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5 メゾンオーブC203

e-mail: fukujidou@yahoo.co.jp 電話・FAX: 024-573-2939

♡略称 ICA 福子 (いかにふくこ) Foster Care for Infants, Children and Adolescents in FUKUSHIMA

お振り込み先

♡ゆうちょ銀行

店名: 二二九店 (店番号 229)

種類: 当座預金

番号: 02220-2-118684

名称: 福島児童養護施設の子どもを考える会

♡大東銀行

店名: 福島西支店 (店番号 047)

種類: 普通預金

番号: 1303901

名称: 福児童 代表 澤田和美

♡三井住友銀行

店名: 白山支店

種類: 普通

番号: 6854164

名称: 福児童 代表 澤田和美

本会は様々な団体の助成金や皆様からのご寄附により、活動を続けています。これまでのご支援に感謝申し上げますと共に、引き続きご支援をお願い申し上げます。

7. 会費の納入および寄付・未使用切手のご寄附を頂きました 感謝申し上げます

蒔田ユリ子、山懸敦子、木村泰幸、小笠原保子、石田雅男、清水清美、犬塚茂生、木田千枝、湯浅資之、馬場隆、沖菜穂子、葛西登喜子、坂上和子、嶋津琴音、田口恵美子、守屋正子、堺祥子、鈴見郁子、津波古澄子、別宮千織、齋藤泰子、戸谷弘彦、中島隆宏・祐子、三原翠、臼井美帆子、中田豊一、津山夏維、津山春香、永田栄子、原岡潔、田中哲夫・好子、原瀬昌久、荒田二郎、坂牧実、高橋明男、高柳允子、尾関静枝、間野聡子、今泉郷子、澤田耕治、鈴木久美、橋場みき子、山崎真由美、半田貴史、猪熊京子、細谷たき子、山田和子、畑野研太郎、遠藤和子、佐野尚子、大野満男、鈴木幹子、渡辺久美子、大畑美和子、数間恵子、澤田和美、大塚哲朗、柳澤千恵子、鈴木敏夫、大江浩、坂口澄子、高山喜美子、岡田友子、宮田美恵、高橋勉・敦子、山本容子、池田香里、清野美紀子、斎藤美貴、大西秋奈、山邊美佐枝、馬場隆、田中とよ美、鳴海喜代子、秋山道子、舛岡泉、村田恵子、立川洪介、加島春来・美枝、川口恭子、張替直美、志賀由美、前島忻治、高橋梓、石原昌子、工藤美子、松平信子、村川佳代、山崎慶子、長畑左樹子、児童養護施設唐池学園有志、チャリティ道草コンサート、ICU 高校キリスト教活動委員会、西千葉教会、群馬緑化株式会社、下落合教会、下落合教会教会学校、名古屋YWCA ハザー、南山教会、名古屋東教会
(2013年12月1日～2014年3月31日にご寄付を頂きました 順不同・敬称略)

8. 本会の活動に対して下記の団体の助成金を頂きました

(2014年3月現在)

●タケダいのちと暮らしの再生プロジェクト

福島県の児童養護施設の子どもと職員の健康状況把握 (尿中セシウム検査、甲状腺エコー検査)

●公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会

①会計業務のスーパーバイズ ②職員及び児童のクイクセルバッチ装着費用 ③甲状腺エコー検査実施時のボランティア医師の交通費、宿泊費、ボランティア保険の費用 ④事務所職員人件費助成

●フクシマススムプロジェクト福島子ども支援 NPO 助成事業

①健康手帳作成 ②健康手帳電子版の開発補助 ③放射能に関する勉強会 ④広報活動

●日本ルーテル教団 東日本大震災対策

健康手帳電子版の開発支援、機材導入

●全国児童養護施設協議会、第10回西日本児童養護施設職員セミナー大阪大会実行委員会

健康手帳作成事業、電子版施設導入

このニュースレターはフクシマススムプロジェクトの助成を受けて印刷しています